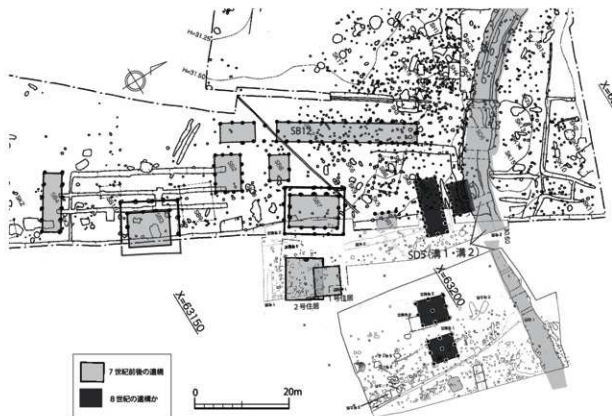




第116図 下唐原伊柳遺跡【J・I・I地区】遺構配置図 (1/800)

第8節 まとめ 古墳時代における古国府遺跡群西部の性格について

最後にここまでの調査・検討成果をまとめ、当調査区及び古国府遺跡群の歴史的意義を考える。

(1) 第15次調査の成果

①古墳時代の集落形成はⅡb期からであり、Ⅲ期～Ⅳa期(4世紀後葉頃～5世紀初頭頃)に方形区画溝SD001が、TK209型式併行期(6世紀末頃～7世紀前葉)頃に大型掘立柱建物跡SB005及びSB025・055と特殊な遺構が形成された。

②周囲の確認調査を踏まえると、当調査地点より西側及び南西側には旧河道が存在し、今回の調査区は古国府遺跡群の集落展開範囲のおよそ西限付近を調査したこととなる。よって、調査地点は集落外側との境界部分にあたり、これに付随した可能性のある土器埋設遺構がⅡb期～Ⅲ期にかけて継続して形成されていた。

③SD001の検討結果

- 土器組成は、一見高坏類が多いが定量分析より導いた土器の比率からは、裏も一定の比率を占めることがわかった。なお、同時期の他遺跡の状況とは大きな差はなく、水鳥形土製品を除けば遺物組成に特異性は見いだせない。

- 環境考古学分析からは、溝内の環境は場所によって乾燥・湿潤を繰り返しながら使用されていることが判明し、溝全体が水を湛えるような施設ではなかった可能性がある。

- 溝内部の施設が不明なため具体的な性格付けは困難である。ただし、高坏の比率は高いが、この時期の生活遺跡も同様の傾向であり、祭祀区域と即断できない。土器の量が多いことから、首長の居住区域の可能性が高いが、倉庫区域や祭祀区域の可能性も全く排除することはできない。よって、この方形環溝の機能は、未掘部分で

の建物の様相解明に委ねるほかないが、首長の居住区域と祭祀区域が分離せず一体化していた可能性も考えられる。

④大型掘立柱建物の性格

・大型掘立柱建物跡SB005・025・055に類する7世紀初頭前後の遺構は各地域の拠点的な遺跡で確認され、「屯倉」推定地とされるものもある。また、これらの類例は、建て替えた痕跡に乏しく、従来空白であった地点を選んで短期的に形成された政治的な施設であった可能性が考えられる。

(2) 大分平野全体からみた古国府遺跡群の集落の消長

これまでの試掘調査や地形を総合すると、古国府遺跡群での古墳時代の遺構の分布は西部地域に偏っており、第117図にて緑色の破線で示す20haをやや越える程の規模で展開すると考えられる。これまでの調査成果を第119図にまとめたが、集落は面的に展開するのではなく旧河道を避けながら自然堤防上や平坦地を選んで遺構を形成しており、主要な施設が島状に点在するイメージとなろう。なお、第15次調査地点で顕著であったように、掘立柱建物跡の重複が少なく、これは古国府遺跡群の他地点でも同様の傾向にあり、4世紀～7世紀末を通じて遺跡としては概ね継続するものの集落占地の変更が頻りにあったことを示している可能性がある。同一の利用が継続しない理由としては自然環境の変化による遷地などに起因するためとも考えられるが、遺跡を形成した集団自体の変化などを反映している可能性も考えられよう。

今回の調査区を含めて、古国府遺跡群全体の古墳時代における集落画期を列挙すると

＜画期1＞Ⅱb期：集落の形成が始まる。＜画期2＞Ⅲ～Ⅳa期：Ⅱb期からの継続した景観であるがSD001が形成され、大分平野の当該期の集落の中において優位性を示す。また古国府遺跡群全体で掘立柱建物が増加する。＜画期3＞Ⅳb期～Ⅴ期：遺構が確認できない時期。集落が停滞・移動するため不明瞭となる。＜画期4＞TK47～TK85型式併行期：再び掘立柱建物が増加される。この段階は羽屋・園遺跡から10次調査（羽屋・井戸遺跡）までの自然堤防上に200m以上にわたる南北方向の区画溝が形成されている可能性があり、この溝にそって2間×2間の倉庫が形成される。計画的な集落景観へと変化しているか。＜画期5＞TK209型式併行期：遺跡の西端部の15次調査地点において大型掘立柱建物跡SB005・025・055が、中央部の羽屋・園遺跡でも大型掘立柱建物跡が形成される。＜画期6＞豊後Ⅲ～Ⅳ-1期頃：第10次調査（羽屋・井戸遺跡）で大分平野の可能性がある門状遺構及び柵を伴う大型掘立柱建物群が形成される。

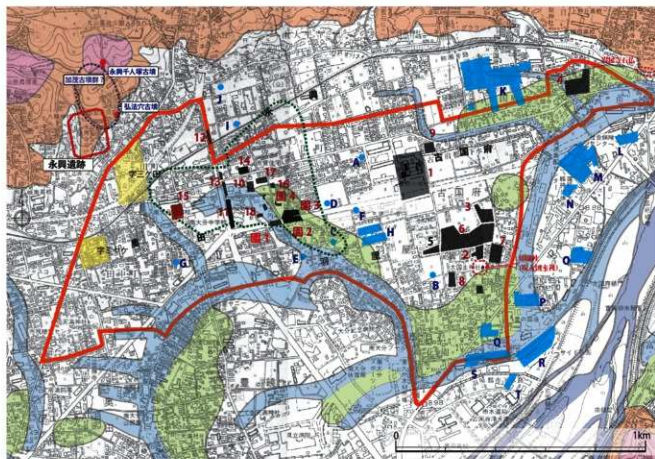
豊後国全体の古墳時代全体を通じての集落画期について長（2012b）にて検討したことがあるが（表17参照）、本報告に関わる部分を抜粋すると、

- i）前期後葉～中期初頭にかかる時期に、各地での拠点的な集落の廃絶ないし大幅な規模の縮小がみられる。
- ii）中期前葉・中葉での大型集落は日田盆地や玖珠盆地で存在しない想定されるが、その他の地域では遺跡数が激減し、大規模集落の痕跡は伺えない。
- iii）6世紀後半になると豊後中部では再び集落が増加するが、7世紀中葉（豊後Ⅰ-2～Ⅱ期）まで継続する集落は極めて例外で、ほとんどの集落で断絶がみられる。
- iv）この7世紀中葉に継続している遺跡はわずかながら存在するが、8世紀代までスムーズに遺跡の形成が継続するものはさらに少ないなどの点が確認できる。

表17に示すように、古国府遺跡群は下部遺跡群や大道遺跡群などの弥生時代後期までたどれるような拠点的な遺跡とは異なり、古墳時代前期中葉頃に他遺跡より後発して出現する。その後5世紀初頭頃までは集落が継続するが、他の遺跡同様に5世紀中葉頃にプランクがみられる。その後、5世紀末～8世紀初頭に至るまで集落が形成されており、集落形成が長期に及ぶ例外的な遺跡であることがわかる。

(3) ＜画期2＞について—5世紀前後の前方後円墳との位置関係—（第119図）

SD001が形成・廃絶する4世紀後半～5世紀初頭頃を前後する時期において、調査地点に近接する大分川左岸での半径3.0km内の大型古墳には以下のものがある。



第117図 古国府遺跡群における古墳時代の集落推定範囲 (1/15000)

表17 古国府遺跡群周辺の集落遺跡及び墳墓の消長

		300	400	500	600	700	750	800	文 献
西 暦		1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	
集成編年 (正統 (1992))		I	IIa	IIb	III	IVa	V	VI	VII
土師器編年 (2010)		I	IIa	IIb	III	IVa	V	VI	
古国府遺跡群		1	2	3	4	5	6	7	8
立 地		1	2	3	4	5	6	7	8
住ノ原遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
大連遺跡群		1	2	3	4	5	6	7	8
東田原遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
若宮八幡宮遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
玉沢地区各遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
樋田中遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
北ノ原遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
下郷遺跡群		1	2	3	4	5	6	7	8
宮前井ノ口遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
堀尾遺跡群		1	2	3	4	5	6	7	8
堀井遺跡 A・B 区		1	2	3	4	5	6	7	8
一木遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
久土・野光遺跡		1	2	3	4	5	6	7	8
城東地区		1	2	3	4	5	6	7	8
東地区		1	2	3	4	5	6	7	8
凡例									
●: 洋緑地 ▲: 丘陵上 ■: 台地 ○: 厩跡									
○: 古国府遺跡群に属する遺跡									
○: 遺跡は存在するが規模が小さい									
○: 付託の状況から遺跡が存在する可能性がある									
○: 古国府遺跡群の集落範囲を示す									
○: 厩跡									

・調査区の北西方向2.4kmの地点において第Ⅱ章の第6・7図に示した墳長約60mの前方後円墳である「蓬萊山古墳」が所在する。盾形の周溝を含めると総長約80mとなる。箱式石棺を主体部とし、表採された壺形埴輪の形態より前期中葉（集成3期前半）の築造と考えられている（田中2010）。北東方向へ2.4kmの地点では「大臣塚古墳」が所在する。墳丘測量図がないため詳細は不明であるが前方部が削平された前方後円墳である。主体部は箱式石棺であり、棺内からは人骨・刀等が出土したと伝えられている。出土した円筒埴輪より中期中葉とされている（田中2010）。調査区よりわずかに0.6km北には帆立貝型の前方後円墳である「永興千人塚古墳」所在する。後円部の一部を残して墳丘部分は全て削平されたものの、全長約47mの規模とされ、周溝の底部分から内面のタタキ目をナデ消した須恵器の大甕や、TK208～TK23型式併行期頃の甕が出土した。5世紀後半頃の築造と考えられている。主体部は、凝灰岩製の刳抜式石棺と考えられている。これら3基の古墳が4世紀後半から5世紀代の古国府遺跡群近辺の前方後円墳の様相であるが、大臣塚古墳や永興千人塚古墳はSD001廃絶以後に築造された古墳と考えられ、時期的には符合しない。また、蓬萊山古墳は壺形埴輪の形態より、SD001の使用者（管理者？）を被葬者とみた場合は、古墳の方が古くなり、古墳の規模からみてもSD001とは対応しない可能性がある。

なお、対象を半径5kmまで広げた場合の主要古墳としては、調査区より南西方向4.9Kmの地点の「御陵古墳」が該当する。御陵古墳は箱式石棺2基を主体部にもつ全長70mの前方後円墳である。盗掘を受けており、廃土中より三角板綴短甲片が出土している他、墳丘からは家型・盾形・円筒・壺形埴輪が出土している。概ね5世紀初頭頃の築造と考えられている。大分平野は当該期に近接して全長120mの豊後最大級の前方後円墳である「亀塚古墳」、豊富な副葬品が出土した「築山古墳」などが相次いで築造され、豊後中部地域の古墳文化上の一つの画期となる時期である。SD001の形成・廃絶期と時期的に符合する古墳としては、御陵古墳が最もふさわしいものの、古墳は大分川右岸側に立地し、その眼下には4世紀～7世紀にかけての集落跡である「玉沢区条里跡」や「稲田市遺跡」が所在しており、御陵古墳の勢力基盤として古国府遺跡群を想定するにはやや無理がある。また、第5節でも指摘されるようにSD001は一边約29mの規模をもつことから、首長居宅とした場合対応する古墳は30m程度のものと考えられ、まだ知られざる古墳が存在する可能性がある。

（4）＜画期5＞について—7世紀代の古国府遺跡群周辺の様相—

次にSB005・025・055との関連において、7世紀初頭前後の古国府遺跡群の様相を確認する。当該期は大分平野内でようやく横穴式石室墳が築造される時期にあたるが、石室墳は大分平野でも古国府遺跡群周辺域にほぼ限られる。「永興千人塚古墳」の築造以後、付近には高塚古墳の存在が全く確認できないが、6世紀中頃とされる「岩御堂横穴墓」には刳抜式家型石棺が内蔵されていた可能性があり、これを首長墓と捉える意見もある（田中2010）が、6世紀代の高塚古墳は不明である。この点は古国府遺跡群に再び面的に集落が展開する集落画期＜画期4＞とは連動しない。横穴式石室の変遷については「弘法穴古墳」「丑殿古墳」「千代丸古墳」の3基のみが現存するが（第Ⅱ章第9図）、古墳の時期を示す遺物の実態が不明であることから石室や石棺の形態論からの様々な変遷案がだされている。現状では吉田和彦氏の「千代丸古墳」→「弘法穴古墳」→「丑殿古墳」という変遷（吉田2000）が妥当に思えるが、同時存在している可能性もある。

古国府遺跡群は、第10次調査（羽屋・井戸遺跡）において7世紀後半頃の大型竪立柱建物跡群が確認されたこともあり、「大分評衡」関連遺跡として7世紀後半頃の遺跡であるイメージが強く、羽屋・園遺跡で確認されていた大型竪立柱建物跡やその他の祭祀遺物についても大分評衡や部面との関連で語られるきらいがあった。今回7世紀前葉を下限とする大型竪立柱建物跡が発見されたことにより、周囲の横穴式石室墳の出現や、羽屋・園遺跡の大型竪立柱建物の存在がひとつの繋がりをもったものとして再認識できることとなった。この7世紀前葉という画期は、遺跡の西部に現る「ミヤケ」という字名との関連を想起させるものであり古国府遺跡群の新たな性格付けを行う必要がある。

(5) 古国府遺跡群の性格（予察）

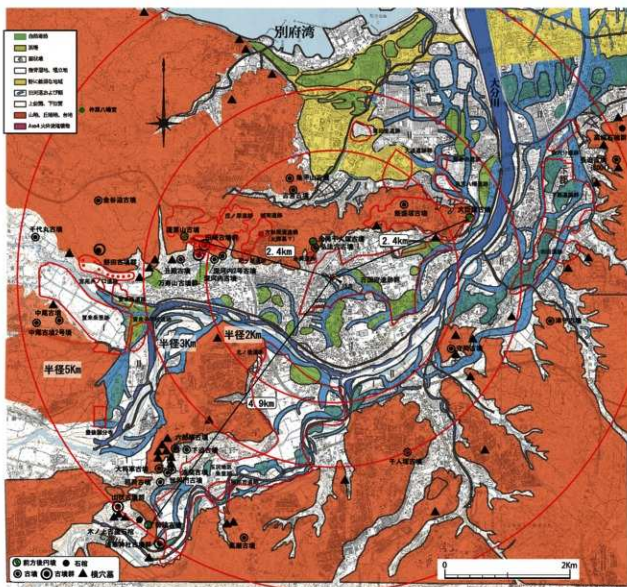
古国府遺跡群の性格については、公表された資料をもとに徳測を交えて指摘したことがある（長2012a、2012b）が、ここでは本報告を踏まえ、改めて遺跡の性格を検討する。これまでの調査事例と周辺遺跡の様相を総合すると古国府遺跡群は、以下の4点に整理できる。

①大分平野では現状で唯一となる4世紀後葉～5世紀初頭頃の方形区画溝が存在し、5世紀中葉頃の様相が不明ではあるが他の集落遺跡と比較して長期に遺跡が形成される。

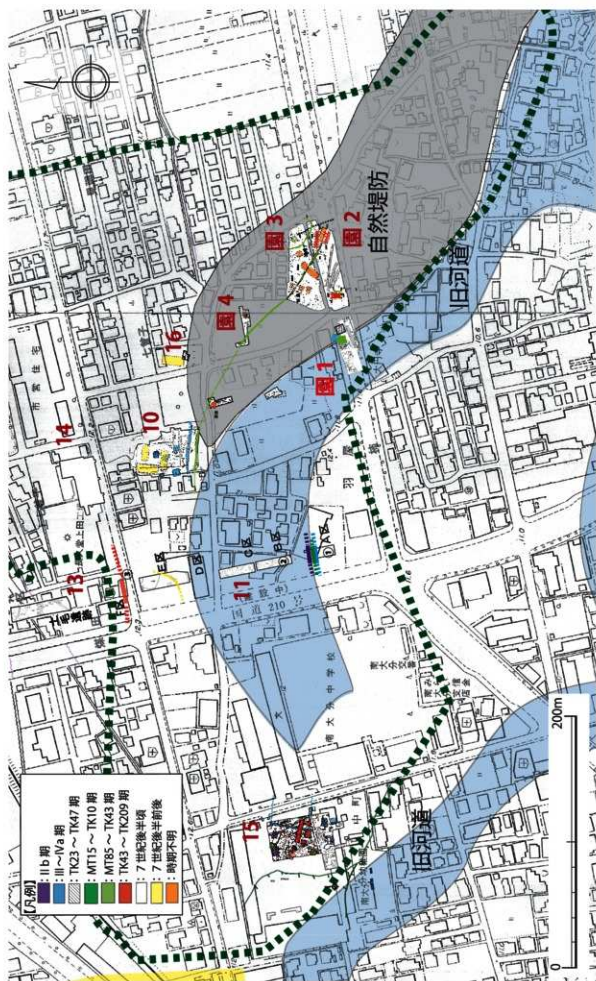
②官衙的な構造を持ったものを含む、6世紀末～7世紀代の大規模掘立柱建物が他地域に先駆けて築造される。付近には竪穴建物は造られず、遺跡の一面には大型建物と倉庫群のみで構成された空間が存在する。

③大和王権祭祀と密接とされる6世紀末～7世紀初頭頃の滑石製子持勾玉が県内で唯一出土する（第119図①地点）他、5世紀代の滑石製剣形模造品や7世紀代とされるミズラを結った土製人形なども出土（第119図③地点）しており、大分平野の他遺跡と比較して祭祀具が充実している。また、6世紀末～7世紀前半頃の鍛冶関連遺構も存在する（第119図②地点）。

④豊後中部地域では別府市の実相寺古墳群や鬼ノ岩屋古墳群などを除けば、唯一まとまって横穴式石室墳が営



第118図 古国府遺跡群周辺の集落遺跡及び墳墓の分布 (1/60000)



赤字：調査次数を示す

第119図 古国街道跡西部の遺相 (4 世紀～7 世紀末頃) (1/3000)

まれる地域であり、かつ縦位埋葬された列状式家形石棺を内蔵する丑殿古墳や横口式石櫛を主体とする古宮古墳が存在するなど、6世紀末頃～7世紀代にかけて近畿地方からの埋葬思想の影響が強くみられる。

すなわち、5世紀中頃の空白時期はあるものの4世紀段階から6世紀代にかけて継続的に集落が営まれた古国府遺跡群は、6世紀末～7世紀初頭に集中して新たな「墓制」・「建築物」・「祭祀具」がセットとして出現することが確認できるのである。これらの要素は、古墳時代の集落遺跡から海部評面・都府へと変化する城原・里遺跡には見られないことから、古国府遺跡群は元来伝統的な在地勢力の拠点であり、かつ7世紀を前後する時期に遺跡内には近畿地方とより密接な関係をもった集団が存在したことを示唆する。その後もこの集団は、8世紀初頭を前後する時期に大分評面の成立に関与し床面積100㎡をこえる超大型建物などを建設しながら古国府遺跡群内に継続して存在し、永興寺の建立や城南遺跡の火葬墓と目される方形周溝遺構の形成に関連した可能性が高い。

さて、ここで問題となるのは以上のような性格を持った遺跡の主体が従来指摘されてきたように丘陵上の古墳群を奥津城とする「大分国造勢力」によるものであるのか（後藤1985）、西別府氏が論及する未知の「屯倉」に関連するものであるかという点である。第Ⅱ章でふれたように西別府元日氏は、古国府遺跡群西部に所在する「字ミヤケ」は律令体制以前の大和政権の直轄地、「字三ヶ田」は、「膳（み）けの田」、すなわち大和政権の影響の強かった豊前の一部が「ミケ（御食）国」と呼ばれていたことを挙げ、大分地域も同様に「ミケ国」的な立場にあったと想定されている。律令期には大分地域から、ミケ＝天皇の食事に奉仕する「膳大伴氏」が出仕しており、当地が律令体制以前に「ミケタ」・「ミヤケ」となっていた可能性を提示した（西別府1987）。近年の屯倉研究では、「屯倉」とは国造・部民らを支配するために中央から派遣された使者が泊り留まり政治を行うための施設であり「大和王権の政治的・軍事的な拠点」が本質であると定義され（館野2004）、各地の国造勢力の拠点には多様な目的をもった屯倉が存在していたと考えられている。よって、考古資料としても各屯倉が担う様々な機能に応じて多様な遺構として発現している可能性がある。そのため、ともすれば拠点的な集落全てが屯倉関連遺跡になりかねず、慎重な評価が必要である。以上の事柄をふまえて、改めて本遺跡を巡る歴史的環境及び考古資料の存在を整理すると

- ・賀来川流域から上野台地西部に所在する横穴式石室墳は、学史上大分国造の奥津城であると評価されており、この墳墓の眼下に広がる沖積平野上に立地する古国府遺跡群は、集落の消長からみて6世紀後葉以降は彼らの本拠地となった可能性がある。

- ・古国府遺跡群の西端には「字ミヤケ」「字三ヶ田」があり、大和王権直属の田や施設が存在した可能性がある。

- ・7世紀を前後する時期に畿内系の列状式家形石棺をもつ横穴式石室や子持勾玉、大型掘立柱建物跡が一斉に出現する。という3点に集約される。

大分市内には、「日本書紀」に記さ

表18 古国府遺跡群の様相

試掘	第15次 の様相	古国府遺跡群の様相				墳墓の様相
		集落	横穴式 石室跡	特殊遺構 祭祀遺物	遺跡の性格	
300	I期					
	II期					
	III期	30080 30130 30085 30275 30035 040 30265 30250	○	+	集落の中心部である	
	IV期	30215 30230 30220 30260 30210 30260	●	+	・古田川流域 (2000m) ・水田開墾跡 (2000m)	遺跡山古墳 横穴式石室 [国造古墳] 横穴式石室
400	Va期	30010	●	+	・水田開墾跡 (2000m)	遺跡山古墳 横穴式石室
	Vb期		+	+	集落跡跡?・移動?	大分県古墳 横穴式石室
	V期		+	+		大分県古墳 横穴式石室
	VI期		○	+	集落跡跡?	大分県古墳 横穴式石室
500	VII期		○	+	集落跡跡?	大分県古墳 横穴式石室
	VIII期		○	+	集落跡跡?	大分県古墳 横穴式石室
	IX期		○	+	集落跡跡?	大分県古墳 横穴式石室
	X期		○	+	集落跡跡?	大分県古墳 横穴式石室
600	XI期	30020 30045 30025 30050 30005 025 055	●	○	・新田開墾・農作 遺跡・農作跡 子持勾玉・水田開墾 土製人形 祭祀遺物	大分県古墳 横穴式石室 [国造古墳] 横穴式石室 [国造古墳] 横穴式石室
	XII期		●	○	大分県古墳 横穴式石室	大分県古墳 横穴式石室
	XIII期		●	○	大分県古墳 横穴式石室	大分県古墳 横穴式石室
	XIV期		●	○	大分県古墳 横穴式石室	大分県古墳 横穴式石室
700	XV期		●	○	大分県古墳 横穴式石室	大分県古墳 横穴式石室
	XVI期		●	○	大分県古墳 横穴式石室	大分県古墳 横穴式石室
	XVII期		●	○	大分県古墳 横穴式石室	大分県古墳 横穴式石室
	XVIII期		●	○	大分県古墳 横穴式石室	大分県古墳 横穴式石室

○：確認できる ●：推定確認できる +：確認できない

れる屯倉比定地は存在しないが、全国には約百ヶ所近くのミヤケ地名が知られている。また、大化2年(646年)に中大兄皇子が献上した屯倉だけでも181ヶ所に上ることから、史料に現れない屯倉が相当数あり実際の屯倉の数は、全国の郡の数を上回るという指摘もある(菱田2007)。日本書紀には推古朝における屯倉の再整備を窺わせる記事も知られており、古国府遺跡群の考古事象の画期が概ね推古朝と重複することを勘案すれば、7世紀初頭頃に、古国府遺跡群の周辺に「大分屯倉」が設置された可能性を考慮する必要がある。文献史上の研究結果に照らせば、『国造勢力』の中に模として大和王権より打ち込まれたのが「屯倉」であり、この屯倉が「止揚」されることで7世紀中葉～後葉に地域支配の拠点として「評家」が成立するとの評価(吉川2004)も踏まえるならば、古国府遺跡群の遺跡動向と非常に整合するのではなからうか。また、九州における屯倉研究の方向性については桃崎祐輔氏が13項目の設定を行っている(桃崎2010・2012)が、この項目を参考にすると古国府遺跡群に該当する箇所が少なくない。

以上の内容から古国府遺跡群は、A:日本書紀に記載されない「屯倉」関連遺跡である可能性と、B:「大分国造(大分君)」の居館である可能性、または、C:その両方があわさった複合的な遺跡である可能性とが考えられる。考古事象の画期の要因を在地首長側からの論理とみるか、畿内王権側からの論理で捉えるかで解釈が180°変わるため論証はむずかしく、当然ながら、Bとした上で、国造勢力が7世紀初頭前後に積極的に畿内王権と関わった結果と見る事もできようが、近年の屯倉研究成果や古国府遺跡群の歴史的・地理的環境を総合化するならば、この解釈が魅力的かつ整合的ではないかと考える。以上の理解を念頭に一つの試案として古国府遺跡群を表18のように整理してみた。すなわち4世紀中頃に一般集落遺跡として出現→方形区画溝の出現と集落の拡大→一時的な断絶を経て→永興千人塚古墳造営→計画的な集落の出現→7世紀初頭前後の大型独立柱建物の出現と同時に付随に横穴式石室が展開。子持勾玉などの中央祭祀の受容。この時点で「大分屯倉」の設置が行われた可能性→7世紀第3四半期頃に「大分評家」へと変質→8世紀第1四半期頃に評価は「郡衙」へ。この頃永興寺の造営か?→8世紀第2四半期に遺跡の断絶。以後、大分郡衙は下部遺跡群へ移転し(坪根2006)、古国府遺跡群の大部分は水田化した可能性が高い。

(6) 今後の課題

第15次調査の成果をもとに、古国府遺跡群が従来指摘されてきたような「大分国造」関連遺跡であり、かつ7世紀初頭頃に一部が「大分屯倉」関連遺跡となっているという新たな解釈を加えてみた。ただし、今後の課題も多い。

まず、亀田修一氏(亀田2005など)や桃崎祐輔氏(桃崎2012)が屯倉研究上重要視する渡来系文物の痕跡が、古国府遺跡群のみならず豊後中部地域全体としても希薄である。また、屯倉の設置に関連して行われたと想定される畜産、製塩、製鉄、鍛冶、農業等の生産活動の痕跡も現状ではほとんど見えず、課題として残される。これには古国府遺跡群だけでなく大分平野の水系や交通網を意識した広い視野での周辺遺跡の分析が必要であろう。また根本的な問題として、ここまで「大分国造勢力」と呼んできたものが、どの段階から捉えられるかという大きな問題も横たわる。国造制は6世紀以降に成立したとされるが、6世紀中頃の古国府遺跡群は区画溝や倉庫を有する計画的な集落へと変化しており、6世紀後半には横穴式石室を造営するなど他の遺跡と比較して優位性を持つ。このことから6世紀中頃～後半頃に「大分国造」勢力のまとまりを捉えることもできるが、引き続き集落研究と墳墓研究の両輪からの検討が必要である⁽²⁸⁾。

このように、課題は山積しているが、横穴式石室自体が希薄な大分平野において、古国府遺跡群は「国造」や「屯倉」、「評家」といった古墳時代社会の画期をなす機関・勢力の動向を検討するための良好な遺跡であり、今回の集落分析を踏まえると、永く「古墳」のみで構築されてきた大分国造及び大分市内の古墳時代像に一石を投じる内容をもった遺跡であると考えられる。今後、古国府遺跡群内での試掘や確認調査事例の地道な蓄積、及び周辺での生産関連遺跡や渡来系文物の動向を注視しつつ大分市の成り立ちを解明していく必要がある。(長 直信)

参考文献・引用文献

■第II章

●第1節・第2節

池田千太郎1993『第IV章 まともと考案』『城南遺跡』大分市教育委員会
上野淳也2011『本郷寺寺』『別府大学文化財学論集』1 後藤宗俊先生古志記念

大分市教育委員会1982『古宮古蹟』大分市文化財調査報告書第4集

大分市教育委員会1982『園遺跡』

大分市教育委員会1983『上野遺跡群』

大分市教育委員会1995『第1節・第2節』『大分市埋蔵文化財調査年報』
vol.7 1995年度

大分市教育委員会1997a『羽田・園遺跡(第3次調査)』『大分市埋蔵文化財調査年報』vol.8 1996年度

大分市教育委員会1997b『110 尾ヶ崎遺跡』『大分市の文化財』

大分市教育委員会1999『上野遺跡群(上野原遺跡)』『大分市埋蔵文化財調査年報』vol.10 1998年度

大分市教育委員会2002『城南遺跡第3次調査 永興千人塚古墳群発掘調査報告書』

大分市教育委員会2003『古園遺跡群』

大分市教育委員会2003『古園遺跡群』上巻 古園遺跡群 大分市埋蔵文化財調査報告書第45集

大分市教育委員会2009『第4章 園指定史跡 千代丸古墳』『大分市市内遺跡踏査調査概報-2008年度-』

大分県教育委員会1999『古園遺跡群』大分県文化財調査報告書第104集

廣川光夫1955a『大分市 古墳時代』『大分市』上巻 大分市史編纂委員会

廣川光夫1955b『第二章 園時代の大分』『大分市史』上巻 大分市史編纂委員会

後藤宗俊1982『大和王権と二重の在り地百選』大和國家の成立と二重の在り地百選』上巻 大分市史編纂委員会

堀内隆一1997『古園遺跡及び周辺地方における古墳の終末と火葬墓の出現』

『第41回 埋蔵文化財研究学会 古墳時代から古代における地域社会』埋蔵文化財研究学会

九州前方面遺跡研究会2000『第3回九州前方面遺跡研究会 九州の墳墓とその変遷と地域性-恵形城跡・円形墳墓・石製土師-』

田村浩行1999『大分県埋蔵文化財調査報告書 築山山古墳・大分川河川古墳・八幡古墳群・行宮古墳群』『大分県埋蔵文化財調査報告書』第11集

佐伯信2008『東山(前山・曹後)における後期古墳の再検討』『第11回九州前方面遺跡研究会 後期古墳の再検討』九州前方面遺跡研究会

長直信2010『曹後期における・8世紀の上層様相-但大分・南部郡を中心に-』『選別、選別?選別!』一武末純先生選別記念事業文集・研究集

長直信2012『曹後期の地勢と対外交渉』『第15回九州前方面遺跡研究会 神ノ島祭祀と九州諸島の対外交渉』

千田昇1986『大分川下流域の地形』『大分川流域』大分大学教育学部

富永隆・杉崎重臣1975『築山山古墳』『大分市の文化財』Ⅲ 大分市教育委員会

中西武尚2011『平成23年度特別展(第30回)大分市 飛鳥と曹後をつなぐ人』大分市歴史資料館

西別府元日1987『築山山古墳の史実』『大分市史』上 大分市史編纂委員会

前田達夫1986『大分川下流域の支配者層の終末-北部九州の古墳終末の諸様相-』『石垣考古』創刊号

■第III章

●第2節・第3節

石野博樹1990『第五章 火災居住地の調査』『日本原始・古代住居の研究』吉川弘文館

大分県教育委員会1999『小迫辻原遺跡』A・B・C・D区 九州横断自動車道埋蔵文化財調査報告書第10

大分市教育委員会1994『福山遺跡群』

大分市教育委員会2008『大分市埋蔵文化財調査報告書』古文化誌第8集

小原博二・山内英樹2005『第3章 築山山古墳群について-環瀬川地域の「創日伝説」の観察-』『紀要愛媛』第5号 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター

九州近世史学会2000『九州前方面の古墳 九州近世史学会10周年記念』

久住猛雄1999『北部九州における庄内式併行期の土器様相』『庄内式土器研究』Ⅹ 庄内式土器研究会

重藤輝行2010『北部九州における古墳時代中期の土器様相』古文化誌第6集

増谷克己2011『土器時代の編年 ①九州』『古墳時代の考古学』2 年代の物語と併行関係 同社

坪根伸也2006『第III章 第10節(5) 小 築山遺跡群第120次調査小堀-120SD1100・120SD1200出土土器について-』『下部遺跡群Ⅳ』大分市教育

委員会

坪根伸也2007『第IV章第2節 下部遺跡群出土の弥生時代終末期から古墳時代初期の土器について』『下部遺跡群Ⅳ』大分市教育委員会

坪根伸也2010『第III章第3節(4) 弥生時代から古墳時代前期の土器による時期区分』『下部遺跡群Ⅳ』大分市教育委員会

中西武尚・服部直和2002『古墳時代中・後期の土師器-大分県-』『第5回九州前方面遺跡研究会発表要旨資料 古墳時代中・後期の土師器-その編年と地域性-』

大分市教育委員会2000『大分県史跡XV-陶器分類編-』

神田智史2011『大分県埋蔵文化財調査報告書第20・23・32出土の土師器の分類について』『大分県埋蔵文化財調査報告書』

平尾久太郎2008『新編の編年とその範囲-北部九州出土土器を中心に-』『伊賀県歴史博物館 紀要』第3号

■第IV章

●第2節

本田光子1995『古墳時代の赤色顔料』『考古学』31・32号合併号 p63-79

中井俊2005『蛍光X線分析の実際』『日本分析化学会X線分析研究懇談会』朝倉書店 p2-12, 52-59, 78-84

志賀智史2007『玉沢地区築山遺跡第9次調査出土の赤色顔料』『玉沢地区築山遺跡第9次調査報告』大分市教育委員会p75-78

バリノ・サーヴェイ(他)2009『丹生川版ノ市来土器出土の自然科学分析調査』『丹生川版ノ市来土器調査報告』大分市教育委員会p49-451

バリノ・サーヴェイ(他)2012『丹生川版ノ市来土器第13次調査に係る赤色顔料分析』『丹生川版ノ市来土器第13次調査報告』大分市教育委員会p83-86

本田光子, 志賀智史2002『大分市玉沢地区築山遺跡第9次調査区第7号墳相墓出土赤色顔料について』『玉沢地区築山遺跡第9次調査報告書 第2分冊科学分析・写真顕微鏡』大分市教育委員会p9-11

山田祐祐2005『宮尾井ノ口遺跡出土赤色顔料の分析』『筑山遺跡群・宮尾井ノ口遺跡 大分市埋蔵文化財センター』

志賀智史2005『宮尾井ノ口遺跡第2次調査出土の赤色顔料』『宮尾井ノ口遺跡第2次・第3次発掘調査報告書』大分市教育委員会p20-222

(他) 古墳研究部, 志賀智史2008『玉沢地区築山遺跡第16次調査で出土した赤色顔料について』『玉沢地区築山遺跡第10・11・12・13・14・16・18・19次発掘調査報告』大分市教育委員会p153-156

●第3節

佐伯信・原田信1985『新築山遺跡の調査』『木材の構造』文芸春秋p20-48

佐伯信・原田信1985『新築山遺跡の調査』『木材の構造』文芸春秋p49-100

佐伯信・伊藤隆夫1988『日本の遺跡出土土製品図鑑』雄山閣p296

■第V章

●第1節(表の引用文献含む)・第2節・第3節・第4節

大分市教育委員会1992『園遺跡』

大分市教育委員会1992『筑山山古墳群』

大分市教育委員会2005『宮尾井ノ口遺跡』大分市埋蔵文化財調査報告書第62集

大分市教育委員会2012『大分市埋蔵文化財調査報告書 2011 平成22年度版』

大分市教育委員会2012『羽田遺跡』大分市埋蔵文化財調査報告書第114集

大分県教育委員会1999『古園遺跡群』大分県文化財調査報告書第104集

大分県教育行政埋蔵文化財センター2005『筑山山古墳群・宮尾井ノ口遺跡』

久住猛雄1999『北部九州における庄内式併行期の土器様相』『庄内式土器研究』Ⅹ 庄内式土器研究会

久住猛雄2002『出土土器の位置づけについて』『元興・桑原遺跡群Ⅱ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第722集

武末純-1978『早良平野の古土師器』『古文化誌』第3集

武末純-1989『小形丸底の輪郭-考古学から見た日朝交流の一断面』『古文化誌』第20集発行記念誌(下)

武末純-2011『弥生時代の集落-北部九州を中心に-』『第5回日本東アジア考古学会(財) 財団法人東アジア考古学会』

武末純-2011『タタキ技法はどこまでさかのぼるか-弥生早・前期の裏をめぐって-』九州史学会 発表資料

長直信2010『曹後期における・8世紀の上層様相-但大分・南部郡を中心に-』『選別、選別?選別!』一武末純先生選別記念事業文集・研究集

一武末純先生選別記念事業文集

千田昇1986『大分川下流域の地形』『大分川流域』大分大学教育学部

坪根伸也2007『第IV章第2節 下部遺跡群出土の弥生時代終末期から古墳時代初期の土器について』『下部遺跡群Ⅳ』大分市教育委員会

坪根伸也2010『第III章第3節(4) 弥生時代から古墳時代前期の土器による時期区分』『下部遺跡群Ⅳ』大分市教育委員会

中島勉次郎1996『定年法への読み-糸875015, 糸875020出土土器について-』『大分県史跡』Ⅹ 財団法人 古大分県保存会

中西武尚・服部直和2002『古墳時代中・後期の土師器-大分県-』『第5回九州前方面遺跡研究会発表要旨資料 古墳時代中・後期の土師器-その編年と地域性-』

九州前方後円墳研究会発表要資料 古墳時代中・後期の土師器—その編年と地域性—

重藤博行2009『古墳時代中・後期の筑前・筑後地域の土師器』『地域の考古学』佐田茂先生在賀大学退任記念論文集
重藤博行2010『北部九州における古墳時代中期の土師器編年』古文化誌第63巻

林眞也・中西武典・今田しのぶ2001『豊後における郡城系土師器について』『大分・大友土器研究会論集』大分・大友土器研究会
文化庁文化財部企画第2010『発掘調査のつぎ』—整理・報告編—

●第5編
中村健1967『花巻分館』古書刊行会82-102.
Huseck.F.(1937—1938)Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeenflora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda Expedition. Arch.Hydrobiol.Supp.15.p.131—506.

Lower.R.L.(1974)Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. 333p. National Environmental Research Center.
K. Krammer・H.Lange Bertalot(1986-1991) Bacillariophyceae・1—4.
Asai.K.&Watanabe.T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophytic and saproxenous taxa.Diatom.10.35-47.

安藤一男1990『淡水産硅藻による環境指標群の設定と古墳時代後への応用』東北地理. 42. p.73-88.
小杉正人1986『陸生硅藻による古墳時代後とその意義—わが国への導入とその展望—』植生史研究 第1号 植生史研究会. p.29-44.

小杉正人1988『硅藻の環境指標群の設定と古墳時代後への応用』『第四紀研究』27. p.20.
笠原安夫1985『日本雄国図説』筑野堂. 494p.

南木勝彦1993『星・果実・種子』『日本第四紀学会編 第四紀史料分析』東京大学出版会p.276—283.
●第6編

ウリ文化財研究所2012『巨勢郡瀬田1485番地遺跡』学術調査報告書42冊
重藤博行2010『北部九州における古墳時代中期の土師器編年』古文化誌第63巻

七田昭彦2005『北九州遺跡』日本古墳誌2同成社.
武末純一1991『土器からみた古墳文化』学生社.
武末純一2001『日本古墳時代前期長尾塚をめぐって』3の三問題—九州の事例から—『韓国古代文化の発展と交流』

大分県教育委員会2001『大分県・佐賀県道X』
長崎2009『古墳時代の道跡学—ヤマト上陸の支那道と福岡文化—』福岡県福岡市教育委員会1996『蒲田・水ヶ元遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第401巻

●第7・8編
井上義也2004『新続ナデ技法』円筒陶器をもつ古墳の性格。福岡県船尾町所在の真直寺古墳と『體屋倉』を中心として—『福岡大学考古学論集』—
小田富士雄先生追憶記—

岩永省三2012『體屋倉中核施設所在地の可能性』『日本考古学協会2012年福岡大会 研究発表資料集』
甲斐孝司2004『鹿部田遺跡の官能建物群』『福岡大学考古学論集』—
小田富士雄先生追憶記—

福岡県教育委員会2010『阿蘇原1号墳第2地点』
最田修一2005『地域における渡来人の認定方法—豊前上毛部地域を例として—』九州における渡来人の受容と展開 第8回 九州前方後円墳研究会
久住益雄2010『福岡平野 北進・郡部の土師器—その編年と地域性—』『都市』

『第5期時代の考古学』集英からよび弥生社会』同成社
後藤宗俊1985『古宮古墳』『大分県史』第117号
菅谷文昭2008『飛鳥宮内部分の跡地処理と発掘技術の進展』『飛鳥宮内部分の調査(1)』奈良国立歴史民俗学研究所調査報告 第102冊
船野和雄2004『大分県上毛部の古墳』『日本史研究』第1巻 東京大学出版会

長谷川2008『東上毛(豊前)における後期古墳の再検討』『第1回九州前方後円墳研究会(後期古墳の再検討)』九州前方後円墳研究会
長谷川2010『福岡県における「新畿土の土師器」—大分・南部を中心に—』『選考・選考?選考!』—武末純一先生追憶記念文集・研究集—

長谷川2012a『豊後地域の勢力と対外交流』『第15回九州前方後円墳研究会 神ノ島祭祀と九州勢力の対外交流』九州前方後円墳研究会
長谷川2012b『豊後地域の様相』『集英からよび弥生社会』第6回同成社文化財研究会

坪根伸也・堀田潤一1996『豊後国府所在地の発掘調査Ⅱ—羽田・戸井道跡とその周辺の調査から—』『大分県報』第163号
坪根伸也2006『豊後国大分郡における官衙成立期の道路動向とその展開』

『第8回 西海道古代官衙研究会資料集』西海道古代官衙研究会
坪根伸也2012『興野々々山道跡と豊後の弥生集落—もうひとつの弥生文化を考へる—』『平成24年 瀬内海考古学研究会 第2回公開大会 平福編』瀬内海考古学研究会

田中裕子2010『東九州における首長墓の変遷と性格』『九州における首長墓系譜の再検討』第13回 九州前方後円墳研究会
西野新元1987『奈良地誌の編年』『大分市史』上 大分市史編纂委員会

西野新元1986『大分県と豊後について』『大分川流域—自然・社会・教育—』大分大学教育学会
豊田哲博2007『古代日本国家形成の考古学』京都大学出版会
村上久和1999『第3章 まえめ』『古国府研究』大分県教育委員会

橘崎祐祐2010『九州の毛織物研究入門』『選考・選考?選考!』—武末純一先生追憶記念文集・研究集—
橘崎祐祐2012『九州の毛織物研究』『日本考古学協会2012年度福岡大会 研究発表資料集』

吉田真司2004『律令体制の形成』『日本史研究』第1巻 東京大学出版会
吉田和彦2000『大分県の横式石室—その形態構造解について—』『おいた考古』第13巻

●第1138回報告書 大分県教育委員会1999a『馬尾道跡 北ノ後道跡之院敷道跡』九州県南自動車道開通埋蔵文化財発掘調査報告書(13)・大分市埋蔵文化財調査報告1992『福岡県』

大分市教育委員会2005『海部の道跡1』大分市埋蔵文化財調査報告書 第56巻・大分市教育委員会2006『若宮八幡宮道跡 第13次発掘調査』大分市埋蔵文化財調査報告書 第67巻・大分市教育委員会2010『城戸・里道跡』第5・7・8・9・12次調査報告書 大分市埋蔵文化財調査報告書 第101巻・福岡県教育委員会2010『阿蘇原1号墳第2地点』大分市教育委員会1999『上野道跡群(上野道跡群)』大分市埋蔵文化財調査報告書 vol.10 1998年度・高橋信武1999『44大分県大分市土師器道跡(上野道跡群)』『日本考古学協会』日本考古学協会より作成(一部改定)

●第1148回報告書 大分市教育委員会2003『下原原伊藤道跡 大平村文化財調査報告書 第14巻・上毛村教育委員会2008『下原原伊藤道跡(下原)』下原原伊藤道跡』上毛村文化財調査報告書 第7巻・奈良県教育委員会1971『飛鳥宮跡』奈良県教育委員会2008『奈良県教育委員会2008』福岡市教育委員会1999『北志道跡群28』(北志道跡群第13・15・21次調査)福岡市埋蔵文化財調査報告書第596巻・福岡市教育委員会(財)松山調査推進事務局埋蔵文化財センター2006『伊勢太夫宮道跡群』調査報告書より作成(一部改定)

●第1717回報告書 大分県教育委員会1996『机道遺跡・北坂田原遺跡・庄ノ原道跡』九州県南自動車道開通埋蔵文化財発掘調査報告書(2)・大分市教育委員会1992『福岡県』大分県教育委員会1999『古国府道跡群』大分県文化財調査報告書第104巻・3・大分市教育委員会2011『大田道跡群4』第20次・第23次・第32次調査報告書(大分市埋蔵文化財調査報告書)大分市埋蔵文化財調査報告書 第106巻・4・大分市教育委員会2005『東田道跡群5』大分市埋蔵文化財調査報告書 第55巻・大分県教育庁埋蔵文化財センター2008『東田道跡群』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第27巻・5・大分市教育委員会2006『若宮八幡宮道跡群』大分市埋蔵文化財調査報告書 第67巻・6・大分市教育委員会2005『玉沢地区系里跡 第3次発掘調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第59巻・大分市教育委員会2005『玉沢地区系里跡 第8次発掘調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第60巻・大分市教育委員会2007『玉沢地区系里跡 第5次発掘調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第71巻・大分市教育委員会2007『玉沢地区系里跡 第17・20次発掘調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第73巻・大分市教育委員会2007『玉沢地区系里跡 第9次発掘調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第75巻・大分市教育委員会2008『玉沢地区系里跡 第10・11・12・13・14・16・18・19次発掘調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第81巻・7・大分市教育委員会1997『ガランジ道跡・船尾田道跡・船尾田道跡』大分県教育委員会1994『福岡市道跡』8・大分県教育委員会1999a『馬尾道跡 北ノ後道跡之院敷道跡』九州県南自動車道開通埋蔵文化財発掘調査報告書(13)・9・大分市教育委員会2010『下原道跡群』大分市埋蔵文化財調査報告書 第100巻・10・大分市教育委員会2008『佐伯市川道跡 第4次調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第83巻・大分市教育委員会2009『高尾山・山口道跡 第5次調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第89巻・11・大分市教育委員会2011『鹿川道跡』大分市埋蔵文化財調査報告書 第107巻・12・大分市教育委員会2001『毛田道跡A地区』大分市埋蔵文化財調査報告書 第121巻・大分県教育委員会2002『毛田道跡B地区』大分市埋蔵文化財調査報告書 第135巻・13・大分市教育委員会1994『大分市埋蔵文化財調査報告書 51—平成5年度—』14・大分市教育委員会1990『新光道跡』大分市埋蔵文化財調査報告書 第82巻・15・大分市教育委員会2005『海部の道跡1』大分市埋蔵文化財調査報告書 第56巻・16・大分市教育委員会2010『城戸・道跡 第5・7・8・9・12次調査報告書』大分市埋蔵文化財調査報告書 第101巻

表19 遺構出土遺物一覧表 1

トーン部分は報告書掲載遺構

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
1	SD001	SD	C8~	灰黄色土 (土器群)	土師器…高坏、要CaⅡ、小型丸底壺、二重口縁壺	方形区画溝	4世紀後半~ 5世紀初頭 (重藤ⅢA期)
				灰黄色土	土師器…高坏、高坏×壺、要CaⅡ・CaⅢ、壺、 小型丸底壺、二重口縁壺、碗		
				灰黄色土 (グリッド)	土師器…高坏、要CaⅡ、壺、小型丸底壺、 二重口縁壺、ミニチュア土器× 不明鉄製品		
				黒褐色土	土師器…高坏、要CaⅡ、壺C、小型丸底壺、 二重口縁壺、長頸壺		
				黒褐色土 (グリッド)	土師器…高坏、要CaⅡ、壺C、小型丸底壺、 ミニチュア土器 須恵器…壺		
				灰褐色土	土師器…高坏、要CaⅡ、壺Ab×、二重口縁壺× 角形土製品 不明土製品 不明石製品		
				灰褐色土 (グリッド)	土師器…高坏、要CaⅡ、壺、二重口縁壺 須恵器…瓦類(誰か)		
				灰褐色土 (最下層)	土師器…高坏、要CaⅡ		
				淡灰褐色土	土師器…小型丸底壺		
2		SX	C6		土師器…小片、要片 須恵器…坏 金属製品…釘(混入か)	浅い	6世紀~
3		SX	C9		土師器…小片	1→3 灰褐粘土	
4		SX	D8		土師器…片	攪乱	
5	SB005	SB	E5~	a柱痕	土師器…要片、坏片	掘立柱建物跡	6世紀後半~ 7世紀前半 (豊後Ⅰ-1期 TK209期)
				a掘方	土師器…要片 須恵器…片		
				b掘方	土師器…片、要 須恵器…坏H(小田IV)		
				c(S044)	須恵器…坏H(小田IV) 弥生土器…要		
				d掘方	土師器…片		
				e	土師器…高坏		
				e柱痕	土師器…要片 須恵器…坏片、蓋×身		
				e掘方	土師器…要E、片 須恵器…供養具片		
				f柱痕	土師器…片		
				f掘方	土師器…要E		
				g柱痕	土師器…片 須恵器…蓋×身		
				h掘方	土師器…要片、要片(厚手)		
				h柱痕	土師器…要小片 須恵器…蓋		
				i	遺物なし		
				j柱穴	土師器…坏		
				j掘方	土師器…鉢片、片		
				k柱穴	土師器…要片		
				k掘方	土師器…要、片 須恵器…坏H(小田IV)		
				l柱痕	土師器…要片		
				l掘方	縄文土器…鉢		

表20 遺構出土遺物一覧表 2

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
5	SB005	SB	E5~	m柱痕	土師器…甕E片	掘立柱建物跡	6世紀後半~ 7世紀前半 (堂後Ⅰ~Ⅲ期 TK209期)
				n掘方	土師器…甕片、甕片(厚手)		
				o	遺物なし		
				p柱痕	土師器…甕片		
				p掘方	土師器…甕片		
				q	須恵器…蓋、高坏(脚部片)、坏		
				q掘方	土師器…甕片、高坏 須恵器…蓋、高坏×台付椀(脚部片)、椀×鉢、坏		
				r柱痕	土師器…甕片、片		
				s柱痕	土師器…鉢×、坏、甕片、片		
				s掘方	土師器…椀		
				t	土師器…甕片		
				t掘方	土師器…甕片 須恵器…甕片、高坏×坏蓋、蓋×		
				u	須恵器…蓋×身、無蓋高坏×		
				u柱痕	土師器…甕片		
6		SP	E8		土師器…甕片	I→6	
7		SP	F4		土師器…高坏×坏	10→7 浅い	
8		SP	F4		土師器…坏片	10→8	
9	SH010c~						
10	SH010	SH	F4		土師器…甕CaⅡ、高坏、小型丸底蓋	竪穴建物跡 90→10→285 柱根遺存 10→9	4世紀末~ 5世紀初頭 (重藤ⅢA期)
				暗灰色土	土師器…高坏、甕、坏×蓋、鉢		
				a	土師器…小型丸底蓋		
				c(S009)	土師器…片(ケズリ) 柱根		
11		SP	E6		土師器…片	5→11	
12		SX	C4		土師器…甕片、高坏×	焼土を少量含む	
13		SX	C4		土師器…甕片 縄文土器…片× 石器…ob片		
14		SP	C4		土師器…煮炊具片		
15	SX015	SX	D4~	上層	土師器…甕片、坏	竪穴建物跡か 110→15→55	4世紀~6世紀
16		SX	D5		土師器…甕片 土師器…甕片(内ハケ) 須恵器…片 弥生土器…片	15→16	
17	SB055b~						
18		SX	O5		遺物なし		
19		P	D8		土師器…小型丸底蓋、高坏	1→19	
20	SH020	SH	B3~	a	土師器…甕小片	竪穴建物跡	6世紀後半 (MT85期 小田ⅢB期)
				暗灰色土	須恵器…甕片		
				b掘方	土師器…供膳具片		
				c	土師器…供膳具片		
				d	遺物なし		

表21 遺構出土遺物一覧表 3

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
20	SH020	SH	B3~	e	土師器…甕片F 須恵器…蓋(小田Ⅲb)	竪穴建物跡	6世紀後半 (MT65期 小田ⅢB期)
				f	遺物なし		
				床下	土師器…甕片 須恵器…蓋(小田Ⅲb)		
				カマド	土師器…甕E 須恵器…蓋(小田Ⅲb)、坏×蓋		
21		SP	D8		土師器…甕E、高坏片(SD001からの混入か)	1→21	
22		SP	C8		土師器…甕片	1→21	
23						欠番	
24		SP	B7		土師器…片		
25	SB025	SB	C9~	a	土師器…片 須恵器…甕片	掘立柱建物跡 1→25→300	6世紀後半~ 7世紀前半 (皇後I~I期 TK209期)
				a掘方	土師器…甕片		
				b	須恵器…蓋、甕片		
				b掘方	土師器…甕片		
				c	土師器…高杯 須恵器…蓋×身、坏×、不明		
				c柱痕	須恵器…蓋		
				c掘方	土師器…高杯 須恵器…蓋、蓋×身		
				d掘方	土師器…甕片、片 須恵器…蓋、坏H		
				d柱痕	土師器…甕片 須恵器…蓋×身、片		
				e	土師器…坏片		
26		SP	C7	e柱痕	土師器…甕		
				e掘方	土師器…甕E 須恵器…甕片		
26		SP	C7		土師器…布留系甕小片 弥生土器…片		
27		SP	C7		土師器…高杯、甕片(内ハケ)		4世紀末~ 5世紀初頭 (重藤ⅢA期)
28		SP	C6		土師器…片		
29		SK	D7		土師器…甕片(内ケズリ)		
30	SA030	SA	B3~	a	遺物なし	横状遺構か	
				b	縄文土器…深鉢		
				c	遺物なし		
31	SP031	SX	C7		土師器…片 赤色顔料?		
32	SP032	SP	D7		土師器…高杯 縄文土器…深鉢(後期)		
33		SP	D6		土師器…甕片		6世紀~
34		SP	D6		弥生土器…甕(後期)		
35	SX035	SX	E5		土師器…甕、蓋×蓋、高杯	土器埋納遺構か	4世紀中頃 (坪根土師器Ⅱb期)
36		SP	F5		土師器…片	15→36	
37		SP	C5		土師器…片	15→37	
38		SP	E5		土師器…甕片(底部)		6世紀~
39		SP	D5		土師器…甕片		6世紀~

表22 遺構出土遺物一覧表 4

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
40	SX040	SX	F5		土師器…高坏(脚)	土器埋納遺構か	4世紀中頃 (坪根土師器Ⅱb期)
41		SK	E4		土師器…甕片(外ハケ・内ナデ)		
42		SP	E4		土師器…甕片(内ハケ) 柱根	柱根遺存	
43		SP	E5		土師器…片		
44	SB005cへ						
45	SB045	SB	C6～	a	遺物なし	掘立柱建物跡 1→45	6世紀後半～ 7世紀前半 (豊後Ⅰ-1期 TK209期)
				b	土師器…甕片(底部)		
				b掘方	土師器…甕(底部)		
				c柱穴	須恵器…瓶類		
				c掘方	土師器…甕片 須恵器…坏×、蓋×碗		
				d	遺物なし		
				e掘方	土師器…小片		
				f	土師器…高坏×、甕片		
				f掘方	土師器…坏片		
				g	遺物なし		
				h	土師器…甕片		
				i掘方	土師器…甕片		
				j	土師器…甕片		
				k	土師器…甕片		
				l	遺物なし		
46		SP	E9		土師器…甕片		
47		SP	F7		土師器…甕片(ケズリ)		
48		SP	F7		弥生土器×古式土師器…片	41→48	
49		SP	F7		土師器…煮炊具片	49→48	
50	SX050	SX	F9		土師器…甕片、坏 須恵器…甕片 縄文土器 弥生土器…甕片(中期)、甕片×(前期) 石器…ob片	遺物包含層	縄文時代後期～ 弥生時代中期か
				茶褐色土	弥生土器…甕(突帯文系)		
51		SP	E6		土師器…甕片 石製品…扁平石材(凝灰岩)		6世紀～
52		SP	E6		土師器…片、甕片 土製品…焼土片		
53		SP	E5		土師器…甕片		
54		SP	E5		土師器…甕片(スス、6世紀か)		6世紀～
55	SB055	SB	E5～	a	土師器…甕片	掘立柱建物跡 55→111	6世紀後半～ 7世紀前半 (豊後Ⅰ-1期 TK209期)
				b(S017)	土師器…甕片 須恵器…蓋 弥生土器…片		
				b掘方	須恵器…坏H(小田IV)		
				c	土師器…甕片(ケズリ) 須恵器…坏×		
				d(S097)	土師器…甕片 須恵器…蓋×無蓋高坏(小田IV)		

表23 遺構出土遺物一覧表 5

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
55	SB055	SB	E5~	e(S099)	土師器…甕片 須恵器…壺、甕×身 縄文土器 弥生土器…甕片	掘立柱建物跡 55→111	6世紀後半~ 7世紀前半 (豊後I~I期 TK209期)
				f	遺物なし		
				g(S132)	土師器…甕片、小片		
56		SP	F5		土師器…片		
57		SP	D9		土師器…甕片(厚手)		6世紀後半~
58		SP	D5		土師器…甕D・片		
59	SA125fへ						
60	SK060	SK	B3		土師器…甕A片 弥生土器…甕	SH020壁内土坑か	6世紀~
61		SP	B4				
62		SP	B3		古式土師器×弥生土器…片		
63	SA125hへ						
64		SP	F4		土師器…片		
65		SX	E6		土師器…甕片× 須恵器…片 弥生土器…甕片	溜まり状遺構	6世紀~
66	SB285fへ						
67		SP	F3		土師器…甕片、小片		6世紀~
68	SB285gへ						
69	SP069	SP	E6		土師器…壺×甕(底部)		
70	SX070	SP	フライ		遺物なし	遺物包含層か	
71		SP	E6		遺物なし	5→71	
72		SP	D6		土師器…片		
73		SP	E7		弥生土器…甕(中期か)		
74		SP	D7		土師器…甕片		
75	SX075	SX	F6		弥生土器…高坏(中期・須玖式系)	土器埋納遺構か	弥生時代中期
76		SX	E8		土師器…甕片	撥乱	
77		SP	E8		土師器…布留系甕片	1→77	
78		SP	E8		土師器…高坏、甕	1→78	
79		SP	E8		土師器…高坏	1→79	
80	SX080	SX	C3		弥生土器…壺(東北九州系・後期)	包含層	弥生時代後期
81		SP	E7		土師器…坏×、甕片		
82		SP	F8		弥生土器…台付鉢×、片	82→1	
83		SP	C4		土師器…片	20→83	
84		SP	C4		土師器…甕片	84→12	
85	ST085	ST	G7		土師器…大型壺Aa 鉄製品…鉄鏝 不明土製品 朱	壺棺墓	4世紀中頃 (坪根土師器Ⅱb期)
86		SP	E5		土師器…片		
87		SP	C7		土師器…甕片(ハケ)		
88		SP	D5		土師器…片	15→88	

表24 遺構出土遺物一覧表 6

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
89	SP089	SP	D5		土師器…坏片(ミガキ)、片 須恵器…提瓶	15→55→89	6世紀末～7世紀前半以降
90	SX090	SX	F3		遺物なし	溝状遺構?	
91		SP	D5		土師器…片(薄手)	15→91	
92		SP	G9		土師器…片		
93		SP	G9		土師器…甕片		
94		SP	G9		土師器…坏x、片		
95	SX095	SX	F6		弥生土器…甕(後期)、甕片 石器…ob	円形遺構 竪穴建物跡か	弥生時代後期～
96	SA135bへ						
97	SB055dへ						
98		SP	D5		土師器…甕	98→89	6世紀～
99	SB055eへ						
100	SX100	SX	G7		弥生土器…片(赤色塗彩)	溝状遺構?	弥生時代中期～
101		SP	D4		土師器…甕片(薄手) 石器…ob片		
102		SP	D4		土師器…片(薄手)		
103		SP	D4		土師器…甕片		
104	SP104	SP	D3		弥生土器…甕片 石器…ob片		弥生時代中期
105	SX105	SA	C6		土師器…甕片	遺物包含層	6世紀～?
106	SA130aへ						
107		SP	C3		土師器…片		
108		SP	C3		土師器…片		
109		SP	D5		土師器…片		
110	SX110	SX	E4		土師器×弥生…片	溝状遺構?	弥生時代～
111		SP	D5		遺物なし	55b→111	
112		SP	C3		遺物なし		
113		SP	D5		遺物なし		
114		SP	D5		土師器…片	SX015の主柱穴か	
115	SA115	SA	A9～	a(S533)	土師器…甕片(薄手)	溝状遺構	
				b(S532)	土師器…甕片		
				c(S534)	土師器…甕片		
116		SP	F4		土師器…甕片		
117		SP	F4		土師器…小片	柱痕あり	
118		SP	E4		土師器…甕片(厚手)	285b→118	6世紀後半～
119		SP	E4		土師器…甕片		6世紀～
120	SB120	SB	H8～	a	土師器…片	竪立柱建物跡 1→120	
				b	遺物なし		
				c	土師器…高坏		

表25 遺構出土遺物一覧表 7

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
120	SB120	SB	H8~	d	遺物なし	掘立柱建物跡 1→120	
				e(S171)	土師器…甕片		
				f(S173)	土師器…片		
				g	遺物なし		
				h	遺物なし		
121		SP	F3		土師器…甕片		
122		SP	E3		土師器…甕片(スス付着)		
123		SP	E4		土師器…甕片 土製品…土玉×	柱痕あり	
124		SP	E3		土師器…甕片		
125	SA125	SA	B3~	a	遺物なし	横状遺構 125→300	
				b	遺物なし		
				c	遺物なし		
				d	遺物なし		
				e	遺物なし		
				f(S059)	土師器…片		
				g	遺物なし		
				h(S063)	焼土片		
126		SP	D3		土師器…甕片		
127	SA130e~						
128		SP	D3		土師器…片		
129	SA130d~						
130	SA130	SA	C3~	a(S106)	土師器…甕片	横状遺構	
				b	遺物なし		
				c	遺物なし		
				d(S129)	土師器…甕片		
				e(S127)	土師器…片		
				f	遺物なし		
131		SP	D6		土師器…高坏片、甕片 縄文土器		
132	SB055g~						
133		SP	E5		土師器…片、坏片		
134		SP	E6		土師器…甕片、高坏		
135	SA135	SA	G8~	a	遺物なし	横状遺構	
				b(S096)	土師器…片(4~5世紀)		
				c(S162)	土師器…甕片		
136		SP	F6		弥生土器…下城式甕		
137		SP	E3		土師器…甕片、ミニチュア		
138		SP	E4		土師器…甕片(厚手)		

表26 遺構出土遺物一覧表 8

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
139		SP	G6		土師器…片		
140	SA140	SA	H5~	a(S216)	遺物なし	横状遺構	
				b	遺物なし		
				c	遺物なし		
				d(S184)	土師器…甕片		
				e	遺物なし		
141		SP	G7		土師器…片		
142		SP	F7		土師器…片		
143		SP	G3		土師器…片		
144		SP	F3		土師器…片		
145						欠番	
146		SP	E3		土師器…片		
147	SB285へ						
148		SP	C3		土師器…片		
149						欠番	
150						欠番	
151		SP	C10		弥生土器…甕片		
152		SP	C9		土師器…甕		
153		SP	D9		土師器…片		
154		SP	E8		土師器…小型丸底壺	154→5u	4世紀中頃 (埴輪土師器Ⅱb期)
155						欠番	
156		SP	E9		土師器…甕(厚手)		
157		SX	E6		石器…ob	焼土を含む 157→5j	
158		SP	C3		土師器…甕片	158→148	
159		SP	C9		縄文土器…片		
160						欠番	
161		SX	G9~		土師器…甕片(厚手) 国産陶器(肥前)…片、(関 西系)…片	攪乱	
162	SA135cへ						
163		SX	H8		遺物なし	攪乱	
164		SX	H8		土師器…高坏片	攪乱	
165						欠番	
166		SP	H9		土師器…甕片、椀	柱穴	
167		SX	G8		土師器…高坏、甕	攪乱	
168		SX	G8		土師器…片	攪乱	
169		SP	I9		土師器…甕片	1→169	
170						欠番	

表27 遺構出土遺物一覧表9

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
171	SB120eへ						
172	SB120dへ						
173	SB120fへ						
174		SX	H9～		土師器…甕片 須恵器…坏片	攪乱	
175						欠番	
176						欠番	
177						欠番	
178		SX	H9		弥生土器…片(赤色塗彩)	攪乱	
179		SP	G10		土師器…大甕×、甕片		
180						欠番	
181		SP	H9		土師器…甕×壺×小壺		
182		SP	H7		遺物なし		
183		SP	H6		土師器…甕片		
184	SA140dへ						
185						欠番	
186		SP	H6		土師器…甕片(薄手)		
187		SP	H5		遺物なし		
188		SP	H5		土師器…片		
189		SP	I5		土師器…甕片(厚手)		
190						欠番	
191		SP	H4		土師器…片	229→191	
192		SP	H4		遺物なし		
193		SP	H4		遺物なし	227→193	
194		SP	G3		土師器…片		
195						欠番	
196	SB285cへ						
197		SX	H3		遺物なし		
198		SP	H3		遺物なし	213→198	
199		SX	I4～		遺物なし	攪乱	
200	SX200	SX	AX0～		土師器…甕 弥生土器…甕(後期)	清伏遺構か	弥生時代後期 前葉
201		SX	J3		遺物なし	攪乱	
202		SP	J4		遺物なし	245→202	
203		SX	I7～		弥生土器…甕片 近世陶磁器(肥前)…片	攪乱	
204		SX	K9		土師器…甕片	攪乱	
205	SX205	SX	AZ2		遺物なし	SX200の延長か	
206		SP	J6		土師器…甕片		
207		SP	J6		土師器…甕片		

表28 遺構出土遺物一覧表10

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
208		SX	J7		遺物なし	攪乱	
209		SP	E6		土師器…壺片		
210	SH210	SH	AX5~		土師器…片	竪穴建物跡 壁溝	埴根土師器Ⅲ期か
211	SB285aへ						
212		SX	H2		土師器…片	浅い	
213		SX	H3		土師器…壺片(薄手) 弥生土器…片	浅い 213→198	
214		SX	G6		遺物なし	攪乱	
215	SH215	SH	AZ8~	北 灰褐色土	土師器…壺D、壺、小型丸底壺、ミニチュア土器	竪穴建物跡	4世紀後半頃 (埴根土師器Ⅲ期)
				北 黄灰色土	土師器…壺、壺Aa、高坏、小型丸底壺、鉢		
				南 灰褐色土	土師器…壺A・A×D、高坏、杯、鉢、碗、小型器台、 ミニチュア土器 不明土製品		
				南 黒灰色土	土師器…壺D、高坏D、小型丸底壺、台付鉢		
				南 灰黄色土	土師器…壺		
				北検出時	土師器…高坏		
				a	遺物なし		
				b	遺物なし		
				e	遺物なし		
				f	遺物なし		
216	SA140aへ						
217		SP	G7		遺物なし		
218		SP	H7		遺物なし		
219		SP	H7		遺物なし		
220	SX220	SX	AW9		土師器…壺、高坏	土器埋納遺構	4世紀後半頃 (埴根土師器Ⅲ期)
221		SP	H5		遺物なし		
222		SP	I5		遺物なし		
223		SP	H5		遺物なし		
224		SP	H5		遺物なし		
225	SX225	SX	AZ5		土師器…高坏	土器埋納遺構	4世紀後半頃 (埴根土師器Ⅲ期)
226		SP	H5		遺物なし		
227		SP	H4		遺物なし	227→193	
228		SP	H4		遺物なし		
229		SP	H4		遺物なし	229→191	
230	SX230	SX	AZ9		土師器…壺D、高坏 骨片	215→230	4世紀後半頃 (埴根土師器Ⅲ期)

表29 遺構出土遺物一覧表11

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
231		SP	H2		遺物なし		
232		SP	G4		遺物なし		
233		SP	G5		遺物なし	柱痕あり	
234		SP	H4		遺物なし	236→234	
235	SH235	SH	AX9~		土師器…甕D、小型丸底壺、高坏、坏	竪穴建物跡 235→547	4世紀中頃 (坪根土師器Ⅱb期)
236	SP236	SP	H4		須恵器…坏身(小田Ⅲb~Ⅳ)	236→234	6世紀後半~
237		SP	I5		遺物なし	237→255a	
238		SP	J4		遺物なし	238→270	
239		SP	I2		遺物なし		
240	SX240	SX	AW4	灰褐色 粘土	土師器…小皿(イト) 須恵器…甕、蓋(小田Ⅳ)、蓋 ×身 龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	水田層	~12世紀後半頃
241	SP241	SP	I2		土師器…甕		
242		SP	H2		遺物なし		
243		SX	J4		遺物なし	270→243	6世紀後半~
244		SP	E3		遺物なし		
245	SH245	SH	J4~		土師器…甕E	竪穴建物跡 250→245→270	6世紀後半頃か
				a	遺物なし		
				b	遺物なし		
				c	遺物なし		
				e	遺物なし		
				f	遺物なし		
246		SX	B5		遺物なし	攪乱	
247		SK	H3		遺物なし	248→247	
248		SK	H3		遺物なし	248→247	
249		SP	I2		遺物なし		
250	SH250	SH	I3~	南側壁溝	土師器…甕A	竪穴建物跡 250→245→270	4世紀中頃 (坪根土師器Ⅱb期)
				上層	土師器…甕A×D、壺、長頸壺、高坏、坏、碗、 ミニチュア土器 弥生土器…甕 石製品…砥石		
				B下層	土師器…小型丸底壺		
				e	遺物なし		
				C下層	土師器…甕E、高坏 須恵器…蓋(小田Ⅲb)、無蓋高坏		
251		SP	I2		遺物なし		
252		SP	G2		遺物なし		
253		SX	B3		遺物なし	280→254	
254	SP254	SP	A3		須恵器…坏身(小田Ⅳ)	253→254	
255	SD255	SD	I5~		土師器片	溝 255→270 255→167	

表30 遺構出土遺物一覧表12

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
256						欠番	
257		SP	D5		遺物なし		
258		SP	J3		遺物なし	250→258	
259		SX	G5		遺物なし	攪乱	
260	SH260	SH	J8~		土師器…高坏、甕A、壺、小型丸底壺、碗、鉢 石製品…砥石× 弥生土器…甕(底部)	竪穴建物跡	4世紀中頃 (坪根土師器Ⅱb期)
				灰色土	土師器…高坏、甕A・D、壺Aa、二重口縁壺、碗、 長頸壺、広口壺 須恵器…蓋×身 土製品…メンコ		
				黄灰色土	土師器…高坏、甕A・D・A×D・D×A、壺Aa・Ab、 二重口縁壺、碗、長頸壺 不明土製品		
				土坑上 黄灰色土	土師器…甕D×A、小型丸底壺		
				暗灰色土	土師器…高坏、甕A・A×D・D・D×A、壺Aa・Ab、 壺×甕、小型丸底壺、長頸壺、鉢、碗、小型甕台、碗 石製品…砥石、敲石		
261		SX	I4		遺物なし	攪乱	
262		SP	I3		遺物なし		
263		SP	H9		遺物なし		
264	SX264	SX	I3		土師器…壺、広口壺、小型丸底壺、高坏	SH250の屋内土坑	
265	SK265	SK	G3		遺物なし	土坑	
266		SP	K8		柱根	柱痕遺存	
270	SK270	SK	J4	検出時	土師器…甕D×A、壺Aa、高坏 須恵器…横瓶、坪H	250→245→270	6世紀後半~ 7世紀前半 (壺後Ⅰ~Ⅰ期 TK209期)
				灰白色土	土師器…甕E、甕(把手) 須恵器…高杯(脚部・底 部)、蓋× 牛×馬(臼歯片)		
				灰色土	土師器…甕、高坏 須恵器…甕、壺、坪、蓋×身、 短頸壺、瓶、平瓶 不明土製品		
				暗灰 粘土土	土師器…甕E 須恵器…坏H(小田Ⅱb)、蓋(小田Ⅳ)		
275	SX275	SX	AX6		土師器…甕	土器埋納遺構 275→523	4世紀中頃 (坪根土師器Ⅱb期)
280	SX280	SX	A3		土師器…片	280→300	
285	SB285	SB	F2~	a(S211)	遺物なし	掘立柱建物跡 10→285f	
				b	遺物なし		
				c(S196)	遺物なし		
				d	遺物なし		
				e	遺物なし		
				f(S066)	土師器…甕片		
				g(S068)	土師器…甕×		
				h	遺物なし		
				i(S147)	土師器…甕片		
				j(S010b)	遺物なし		

表31 遺構出土遺物一覧表13

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
290	SX290	SX	G5		遺物なし	遺物包含層	
295	SX295	SX	G7		弥生土器…甕(後期)、高坏(中期)	遺物包含層	
300	SD300	SD	A3~ A10		国産磁器(肥前系)…甕	近世 水路跡	16世紀頃
305						欠番	
500						欠番	
501		SP	AZ3		土師器…片(やや薄手)		
502		SP	AZ3		土師器…甕片(5世紀か)		
503		SP	AX2		土師器…甕片(厚手)		6世紀後半～
504		SX	AX3		須恵器…坏片	攪乱	6世紀後半～
505						欠番	
506		SP	AX3		土師器…甕片		
507		SP	AZ1		土師器…大甕片		
508		SP	AX3		土師器…甕片		
509		SP	AW8		土師器…甕×甕片		
510						欠番	
511		SP	AW8		土師器…甕片(やや薄手)		
512		SP	AX8		土師器…甕片		
513		SP	AW8		土師器…片		
514		SP	AW8		土師器…甕片		
515						欠番	
516		SX	AZ8		土師器…甕片(安国寺式)	攪乱	
517		SX	A6		土師器…片 弥生土器…甕片 国産陶器(肥前)…椀	攪乱	
518		SX	AZ6		土師器…甕片×(ミガキ風) 国産陶器(京後風)…碗	攪乱	
519		SX	AY6～7		土師器…甕片 国産陶器(関西系)…擂鉢片	攪乱	
520						欠番	
521		SX	AY6		須恵器…坏×	攪乱	
522		SX	AX5		土師器…甕片	攪乱	
523		SX	AX6		土師器…高坏片、甕片	攪乱	
524		SX	AY6		土師器…甕片	攪乱	
525						欠番	
526		SP	A7		土師器…甕片		
527		SP	AX5		土師器…甕片(ケズリ、薄手)		
528		SP	AX6		土師器…甕片 須恵器…片		6世紀～
529		SP	AX5		土師器…甕 石製品…結晶片岩片		6世紀～
530						欠番	
531		SP	AZ5		土師器…高坏×		

表32 遺構出土遺物一覧表14

S番号	遺構番号	種類	地区	取り上げ 土色	出土遺物	切り合い/埋土 /備考	時期
532	SA115bへ						
533	SA115aへ						
534	SA115cへ						
535						欠番	
536		SP	A9		土師器…甕片(厚手)		
537	SP537	SP	A6		土師器…煮炊具片 須恵器…蓋×身 石器…ob片	537→300	6世紀後半～
538		SX	AZ9		土師器…甕片、甕× 石器…ob片	攪乱	
539		SX	AY8		土師器…甕×		
540						欠番	
541	SX541	SX	AY9～		土師器…甕、二重口縁壺、坏、鉢、碗	215→541 攪乱	
542		SP	AX9		土師器…甕片		
543	SP543	SP	AX5		土師器…甕、小型丸底壺		
544		SX	AZ7		土師器…片(薄手)	攪乱	
545						欠番	
546		SX	AZ8		土師器…甕片(古墳前期)、小片	攪乱	
547		SX	AX9		土師器…高坏、小片 石器…ob片	攪乱	
548		SP	AZ9		土師器…小片		
549		SX	AZ9		土師器…甕片	攪乱	
550						欠番	
551		SX	A8		土師器…甕片、片	攪乱	
552		SP	A4		遺物なし		
黄灰色土					縄文土器…深鉢(後期) 石器…ob(腰岳系)		
検出時					土師器…甕片、甕、片 須恵器…蓋、坏(小田IV)、 甕、弥生土器…甕(前期)		
			北側		土師器…甕片、鉢、布留系甕 須恵器…坏片、甕 片、蓋×坏 弥生土器…甕 近世陶磁器		
表土					土師器…小型丸底壺、瓶 須恵器…高坏、坏×、 蓋(小田IIIb)、蓋×身、甕、甕片(内面一部ナデ消 し) 縄文土器…鉢× 弥生土器…下城式甕片、 東北部九州系甕、高坏(中期)、甕(後期) 土製品 …不明土製品、紡錘車 石製品…玉石 平瓦(正 格子目)		
			南側		土師器…甕、小型丸底壺		
2トレンチ検出時					土師器…甕片 近世陶磁器…片		
2トレンチ灰褐色土					土師器…片 須恵器…坏片、甕片、甕片		

表33 遺物観察表 1

博図 番号	通欄 番号	種別	器種	法量(cm) ()は複元数値					胎土	色調	備考	R 番号
				口径/ 最大長	器高/ 最大幅	底径/ 最大厚	孔径	重量 (g)				
第46図 1	SB005b 掘方	土師器	甕	—	3.3+ α	—	—	—	長石	にぶい 黄褐色		001
第46図 2	SB005b 掘方	須恵器	坏身	(11.2)	2.8+ α	—	—	—	黒色粒・白色粒	灰色		002
第46図 3	SB005b 掘方	須恵器	坏身	—	2.8+ α	—	—	—	白色粒・長石	灰褐色		004
第46図 4	SB005b 掘方	須恵器	坏身	—	2.7+ α	—	—	—	黒色粒・白色粒	灰褐色		003
第46図 5	SB005c	弥生 土器	甕	—	4.3+ α	(9.8)	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	(内)黄灰色 (外)にぶい 赤褐色		001
第46図 6	SB005c	須恵器	坏身	—	2.8+ α	—	—	—	白色粒	暗灰色		002
第46図 7	SB005c 掘方	土師器	甕	—	2.5+ α	—	—	—	角閃石・長石	浅黄褐色	中西・服部2002 要E類 外面に赤色顔料付着か	001
第46図 8	SB005c 柱痕	須恵器	坏蓋× 坏身	—	0.8+ α	—	—	—	白色粒	灰色		001
第46図 9	SB005e	土師器	高坏	—	3.3+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 赤色粒	(内)にぶい 褐色 (外)にぶい 黄褐色		001
第46図 10	SB005f 掘方	土師器	甕	—	4.3+ α	—	—	—	長石	浅黄褐色	中西・服部2002 要E類	001
第46図 11	SB005g 柱痕	須恵器	坏蓋× 坏身	—	1.1+ α	—	—	—	白色粒	灰色		001
第46図 12	SB005h 柱痕	土師器	甕	—	3.6+ α	—	—	—	角閃石・長石	浅黄褐色		001
第46図 13	SB005h 柱痕	須恵器	坏蓋	—	1.9+ α	—	—	—	白色粒	(内)灰色 (外)暗灰色		002
第46図 14	SB005j 柱穴	土師器	坏	—	2.6+ α	—	—	—	角閃石・長石	明赤褐色		001
第46図 15	SB005k 掘方	土師器	甕	—	3.0+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 石英・金雲母	にぶい 黄褐色		001
第46図 16	SB005k 掘方	須恵器	坏身	—	1.8+ α	—	—	—	白色粒	灰色		002
第46図 17	SB005m 柱痕	土師器	甕	—	2.1+ α	—	—	—	角閃石・長石	(内)白黄色 (外)浅黄褐色	中西・服部2002 要E類	001
第46図 18	SB005a 掘方	須恵器	坏身	(10.8)	2.7+ α	—	—	—	黒色粒・ 白色粒	灰褐色		003
第46図 19	SB005a 掘方	須恵器	碗×鉢	(13.1)	1.8+ α	—	—	—	白色粒	灰色		001
第46図 20	SB005a 掘方	須恵器	高坏× 台付碗	(11.6)	1.8+ α	—	—	—	白色粒	灰色		002
第46図 21	SB005s 掘方	土師器	碗	—	2.8+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	(内)灰黄色 (外)暗褐色		001
第46図 22	SB005t 掘方	須恵器	甕	—	8.2+ α	—	—	—	白色粒	灰色		001
第46図 23	SB005t 掘方	須恵器	坏蓋か	—	2.8+ α	—	—	—	長石・白色粒	淡灰色		002

表34 遺物観察表2

博図 番号	通帳 番号	種別	器種	法量(cm ())は復元数値					胎土	色調	備考	R 番号
				口径/ 最大長	器高/ 最大幅	底径/ 最大厚	孔径	重量 (g)				
第46図 24	SB005u	須恵器	坏蓋× 坏身	—	1.0+α	—	—	—	石英・長石	淡灰色		001
第46図 25	SB005u	須恵器	高坏	12.2	3.4+α	—	—	—	白色粒・黒色粒	淡灰色	無蓋高坏か	002
第46図 26	SB025b	須恵器	甕	—	5.8+α	—	—	—	白色粒	灰白色		001
第46図 27	SB025c 掘方	土師器	高坏	—	3.1+α	—	—	—	角閃石・長石	(内)にぶい 黄褐色 (外)灰黄色		001
第46図 28	SB025c 掘方	須恵器	坏蓋× 坏身	—	1.0+α	—	—	—	黒色粒	灰色		003
第46図 29	SB025c 掘方	須恵器	坏蓋	—	3.4+α	—	—	—	白色粒	(内)灰色 (外)明赤灰色	口縁端部外面刻目あり	002
第46図 30	SB025c 柱底	須恵器	坏蓋 (14.8)	—	2.3+α	—	—	—	白色粒	灰色		001
第46図 31	SB025c	土師器	高坏	—	3.6+α	—	—	—	角閃石・長石	(内)黄白色 (外)明赤褐色	内外面に赤色顔料付着	001
第46図 32	SB025c	須恵器	坏蓋× 坏身	—	1.8+α	—	—	—	白色粒	灰色		002
第46図 33	SB025c	須恵器	坏身か	—	1.0+α	—	—	—	白色粒	暗灰色		003
第46図 34	SB025d 掘方	須恵器	甕	—	3.2+α	—	—	—	白色粒	灰色		001
第46図 35	SB025d 掘方	須恵器	坏身	—	2.1+α	—	—	—	白色粒	灰色		002
第46図 36	SB025d 柱底	須恵器	坏蓋× 坏身	—	1.1+α	—	—	—	白色粒	暗灰色		001
第46図 37	SB025e 掘方	土師器	甕	—	6.6+α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	浅黄褐色	中西・服部2002 甕E類	001
第46図 38	SB025e 掘方	土師器	甕	—	4.1+α	—	—	—	長石・角閃石	(内)橙色 (外)にぶい 褐色	中西・服部2002 甕E類	003
第46図 39	SB025e 掘方	須恵器	甕	—	6.5+α	—	—	—	白色粒・黒色粒	褐灰色		002
第46図 40	SB025e 柱底	土師器	甕	—	3.2+α	—	—	—	長石・角閃石	(内)灰黄褐色 (外)にぶい 黄褐色		001
第46図 41	SB025e	土師器	坏	—	2.3+α	—	—	—	長石・角閃石	(内)にぶい 褐色 (外)褐色		001
第47図 1	SB055b 掘方	須恵器	坏身	(11.8)	2.6+α	—	—	—	黒色粒・白色粒	灰色		001
第47図 2	SB055b	須恵器	坏蓋	—	2.1+α	—	—	—	白色粒	暗灰色		001
第47図 3	SB055d	須恵器	坏蓋×無 蓋高坏	—	2.8+α	—	—	—	白色粒	灰色		001
第47図 4	SB055e	土師器	甕	—	2.0+α	—	—	—	角閃石・長石・ 赤色粒・白色粒	にぶい 黄褐色		004

表35 遺物観察表 3

博図 番号	通稱 番号	種別	器種	法量(cm) ()は複元数値					胎土	色調	備考	R 番号
				口径/ 最大長	器高/ 最大幅	底径/ 最大厚	孔径	重量 (g)				
第47図 5	SB055e	須恵器	坏蓋	—	1.6+ α	—	—	—	白色粒	灰色		003
第47図 6	SB055e	須恵器	坏蓋× 坏身	—	2.1+ α	—	—	—	角閃石・白色 粒・赤色粒	灰白色		001
第47図 7	SB055e	須恵器	坏蓋× 坏身	—	1.9+ α	—	—	—	石英・白色粒	灰色		002
第47図 8	SB055g	土師器	壺	—	1.9+ α	—	—	—	角閃石・長石	にぶい 黄褐色		001
第47図 9	SB045b	土師器	壺	—	1.9+ α	—	—	—	長石・角閃石	(内)灰白色 (外)灰黄褐色		001
第47図 10	SB045c	須恵器	坏蓋× 壺方	—	2.8+ α	—	—	—	黒色粒	灰色		001
第47図 11	SB045c	須恵器	瓶	—	3.1+ α	—	—	—	白色粒	灰色		001
第47図 12	SB120c	土師器	高坏	—	3.3+ α	—	—	—	角閃石・長石	(内)明褐灰色 (外)にぶい 褐色		001
第47図 13	SA115c	土師器	壺	—	2.6+ α	—	—	—	長石・角閃石	(内)褐色 (外)にぶい 黄褐色		001
第47図 14	SA030b	縄文 土器	深鉢	—	4.0+ α	—	—	—	角閃石・長石	黒褐色		001
第47図 15	SA130d	土師器	壺	—	2.8+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	にぶい褐色		001
第47図 16	SH010	土師器	壺 (18.2)	23.0+ α	—	—	—	—	角閃石・長石・ 石英	(内)褐色 (外)黄褐色	外面にスス付着	002
第47図 17	SH010	土師器	小型 丸底壺	8.8	8.7	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	淡黄白褐色		006
第47図 18	SH010	土師器	小型 丸底壺	8.1	7.6	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	にぶい 黄白色	外面に黒斑あり	005
第47図 19	SH010	土師器	小型 丸底壺	—	7.8+ α	—	—	—	石英・角閃石・ 白色粒	黄褐色	外面に黒斑あり 内面底部に赤色顔料付 着か	001
第47図 20	SH010	土師器	小型 丸底壺	10.2	9.5	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	淡茶白色	口縁部打ち欠き	007
第47図 21	SH010	土師器	小型 丸底壺	—	5.5+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	淡褐色	口縁部打ち欠き 外面に黒斑あり	004
第47図 22	SH010	土師器	高坏	15.6	5.5+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒・赤色粒	(内)にぶい 褐色 (外)にぶい 赤褐色	外面にスス付着	003
第47図 23	SH010 暗灰色 土	土師器	壺	—	2.6+ α	—	—	—	長石・角閃石・ 白色粒	褐色		007
第47図 24	SH010 暗灰色 土	土師器	高坏	(15.5)	1.7+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	(内)黒褐色 (外)灰褐色		006
第47図 25	SH010 暗灰色 土	土師器	高坏	—	7.1+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒・金雲母	(内)暗黄褐色 (外)褐色	裾部打ち欠き 外面に丁寧な調整	001

表36 遺物観察表 4

博図 番号	通標 番号	種別	器種	法量(cm) ()は復元数値					胎土	色調	備考	R 番号
				口径/ 最大長	器高/ 最大幅	底径/ 最大厚	孔径	重量 (g)				
第47図 26	SH010 暗灰色 土	土師器	高坏	(14.8)	3.3+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	黄褐色		002
第47図 27	SH010 暗灰色 土	土師器	高坏	(13.4)	2.9+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	淡黄褐色		003
第47図 28	SH010 暗灰色 土	土師器	高坏	—	3.3+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	褐色		004
第47図 29	SH010 暗灰色 土	土師器	高坏	—	2.3+ α	—	—	—	角閃石・長石	(内)淡褐色 (外)黄褐色		005
第47図 30	SH010 暗灰色 土	土師器	鉢	(8.6)	3.5+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	黄褐色		008
第47図 31	SH010a 土師器	小型 丸底壺		(11.4)	3.7+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	にぶい 黄褐色		001
第48図 1	SH020 床下	土師器	壺	—	2.5+ α	—	—	—	長石・角閃石・ 白色粒	(内)にぶい 褐色 (外)にぶい 黄褐色		003
第48図 2	SH020 床下	須恵器	坏蓋	(13.0)	2.4+ α	—	—	—	白色粒	暗灰色		002
第48図 3	SH020 床下	須恵器	坏蓋	—	2.7+ α	—	—	—	白色粒・長石	暗灰色		001
第48図 4	SH020 カマド	土師器	壺	(14.8)	9.2+ α	—	—	—	白色粒・長石・ 角閃石・石英・ 赤色粒	明赤褐色		002
第48図 5	SH020 カマド	土師器	壺	(13.2)	11.2+ α	—	—	—	長石・角閃石・ 赤色粒	黄褐色		003
第48図 6	SH020 カマド	土師器	壺	13.9	12.3+ α	—	—	—	角閃石・長石	淡黄色	中西・殷部2002 壺E類 外面に黒斑あり	004
第48図 7	SH020 カマド	須恵器	坏身× 坏蓋	—	1.5+ α	—	—	—	長石	(内)暗灰色 (外)褐色	6世紀中頃～後半 焼成不良	001
第48図 8	SH020 カマド	須恵器	坏蓋	—	2.6+ α	—	—	—	白色粒	暗灰色		005
第48図 9	SH020a 土師器	壺		(12.4)	10.1+ α	—	—	—	長石・角閃石・ 白色粒・赤色粒	にぶい 黄褐色	中西・殷部2002 壺F類	002
第48図 10	SH020a 須恵器	坏蓋		14.8	3.6	—	—	—	石英	(内)褐灰色 (外)灰色	天井内面に使用痕あり	001
第48図 11	SK060 土師器	壺	—	3.6+ α	—	—	—	—	角閃石・赤色粒	にぶい 黄褐色	壺Aか	001
第48図 12	SK060 弥生 土器	壺	—	2.0+ α	—	—	—	—	角閃石・長石	にぶい 黄褐色		002
第48図 13	SH215 北桃出 時	土師器	高坏	(14.8)	4.5+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 赤色粒	(内)褐色 (外)にぶい 褐色	赤色塗彩	001
第48図 14	SH215 北灰褐色 土	土師器	壺	16.0	6.3+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	(内)灰黄色 (外)灰黄褐色	外面にスス付着 外面に黒斑あり	001

表37 遺物観察表 5

博図 番号	通稱 番号	種別	器種	法量(cm ())は復元数値					胎土	色調	備考	R 番号
				口径/ 最大長	器高/ 最大幅	底径/ 最大厚	孔径	重量 (g)				
第48図 15	SH215 北灰褐色土	土師器	壺	(18.3)	4.8+α	—	—	—	白色粒	灰黄色	外面にスス付着	005
第48図 16	SH215 北灰褐色土	土師器	壺	(16.0)	5.1+α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	(内)にぶい 橙色 (外)橙色	外面にスス付着	003
第48図 17	SH215 北灰褐色土	土師器	壺	—	6.8+α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	(内)明赤褐色 (外)橙色		004
第48図 18	SH215 北灰褐色土	土師器	壺	(18.7)	7.6+α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	にぶい 赤褐色	二重口縁壺	002
第48図 19	SH215 北灰褐色土	土師器	小型 丸底壺	(9.6)	7.4+α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	橙色		006
第48図 20	SH215 北灰褐色土	土製品	ミニチュ ア土器	5.3	4.3	—	—	—	白色粒・角閃 石・長石	(内)橙色 (外)にぶい 橙色	外面に黒斑あり ほぼ完形	007
第48図 21	SH215 北黄灰色土	土師器	鉢	—	4.4+α	—	—	—	角閃石・長石	橙色		003
第48図 22	SH215 北黄灰色土	土師器	壺	—	2.2+α	—	—	—	長石	黒褐色	壺Aa	005
第48図 23	SH215 北黄灰色土	土師器	壺	—	2.7+α	—	—	—	角閃石・長石	橙色	壺Aa 外面に黒斑あり	006
第48図 24	SH215 北黄灰色土	土師器	高坏	—	4.7+α	—	—	—	角閃石・長石	橙色		002
第48図 25	SH215 北黄灰色土	土師器	高坏	—	3.3+α	—	—	—	角閃石・白色粒	(内)にぶい 黄褐色 (外)褐灰色		001
第48図 26	SH215 北黄灰色土	土師器	小型 丸底壺	(10.2)	3.8+α	—	—	—	角閃石・長石	浅黄褐色		004
第49図 27	SH215 南灰褐色土	土師器	壺	(14.0)	15.9+α	—	—	—	角閃石・長石	(内)橙色 (外)黒褐色	壺A 外面全体が黒色を呈す	005
第49図 28	SH215 南灰褐色土	土師器	壺	(16.4)	13.0+α	—	—	—	長石・角閃石	(内)にぶい 橙色 (外)橙色	壺A×D 外面にスス付着 外面に黒斑あり	006
第49図 29	SH215 南灰褐色土	土師器	壺	(11.4)	5.9+α	—	—	—	角閃石・長石・ 赤色粒	鮮やかな 橙色	内外面に黒斑あり 丁寧なナデを施す	009
第49図 30	SH215 南灰褐色土	土師器	壺	(10.4)	6.4+α	—	—	—	角閃石・長石	橙色	第49図46と同一個体か	010
第49図 31	SH215 南灰褐色土	土師器	鉢	(14.9)	4.4+α	—	—	—	長石・角閃石	橙色		004
第49図 32	SH215 南灰褐色土	土師器	高坏	—	3.6+α	—	—	—	角閃石・赤色 粒・白色粒	(内)にぶい 橙色 (外)橙色		001

表38 遺物観察表6

博図 番号	通標 番号	種別	器種	法量(cm) ()は復元数値					胎土	色調	備考	R 番号
				口径/ 最大長	器高/ 最大幅	底径/ 最大厚	孔径	重量 (g)				
第49図 33	SH215 南灰褐色土	土師器	高坏	—	9.0+ α	11.2	—	—	角閃石・赤色 粒・白色粒	橙色	高坏D	008
第49図 34	SH215 南灰褐色土	土師器	高坏	—	1.1+ α	(12.6)	—	—	角閃石・長石	にぶい 黄橙色	高坏D 内面に黒斑あり	002
第49図 35	SH215 南灰褐色土	土師器	器台	—	6.2+ α	10.7	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	橙色		003
第49図 36	SH215 南灰褐色土	土師器	器台	—	2.1+ α	—	—	—	角閃石・長石	にぶい 赤褐色		011
第49図 37	SH215 南灰褐色土	土師器	碗	(16.0)	2.8+ α	—	—	—	石英・角閃石・ 長石・金雲母	橙色	内面は非常に丁寧なナ デ	012
第49図 38	SH215 南灰褐色土	土師器	碗	—	2.4+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	橙色		013
第49図 39	SH215 南灰褐色土	土製品	ミニチュ ア土器	—	2.2+ α	1.6	—	—	角閃石	(内)明赤褐色 (外)黒褐色		014
第49図 40	SH215 南灰褐色土	土製品	不明	6.9	4.7	2.5	—	—	角閃石・長石	にぶい橙色		007
第49図 41	SH215 南黒灰土	土師器	壺	—	2.9+ α	—	—	—	角閃石・長石	橙色	壺D	003
第49図 42	SH215 南黒灰土	土師器	小型 丸底壺	(11.0)	4.3+ α	—	—	—	角閃石・長石	(内)橙色 (外)にぶい 橙色		004
第49図 43	SH215 南黒灰土	土師器	高坏	(14.8)	5.5+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	橙色	高坏D	002
第49図 44	SH215 南黒灰土	土師器	台付鉢	—	5.5+ α	—	—	—	角閃石・長石	橙色		001
第49図 45	SH215 南灰黄色土	土師器	壺	—	17.3+ α	—	—	—	角閃石・長石	橙色	外面に黒斑あり	001
第49図 46	SH215 南灰黄色土	土師器	壺	(10.0)	8.8+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	鮮やかな橙 色	内外面に黒斑あり 非常に丁寧なナ デ 第49図30と同一個体か	002
第49図 47	SH235	土師器	壺	—	2.5+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	にぶい 黄橙色	壺D	003
第49図 48	SH235	土師器	高坏	—	6.9+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	黄橙色	环接合部・裾部打ち欠き 穿孔2ヶ所残存	001
第49図 49	SH235	土師器	小型 丸底壺	(13.4)	5.8+ α	—	—	—	角閃石・ 金雲母・長石	(内)にぶい 橙色 (外)灰褐色		002
第49図 50	SH235	土師器	坏	—	3.0+ α	—	—	—	角閃石・金雲母	浅黄褐色		004
第49図 51	SH245	土師器	壺	—	2.6+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	橙色	中西・服部2002 壺E類	001

表39 遺物観察表 7

博図 番号	通帳 番号	種別	器種	法量(cm) ()は復元数値					胎土	色調	備考	R 番号
				口径/ 最大長	器高/ 最大幅	底径/ 最大厚	孔徑	重量 (g)				
第49図 52	SH245	土師器	甕	—	3.5+ α	—	—	—	白色粒・ 角閃石・長石	(内)灰黄褐色 (外)にぶい 黄褐色		002
第50図 1	SH250 上層	土師器	甕	—	22.3+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 金雲母	にぶい褐色	要A×D 外面にスス付着	001
第50図 2	SH250 上層	土師器	甕	—	2.6+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	(内)灰黄色 (外)褐色		005
第50図 3	SH250 上層	土師器	壺	(16.0)	4.4+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 赤色粒・白色粒	淡黄白色	山陰系の複合口縁壺に 類似	002
第50図 4	SH250 上層	土師器	高坏	(17.6)	4.3+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	褐色	内外面に黒斑あり	007
第50図 5	SH250 上層	土師器	高坏	—	3.6+ α	—	—	—	長石・角閃石・ 赤色粒	褐色		006
第50図 6	SH250 上層	土師器	長頸壺	—	4.2+ α	—	—	—	精製土・長石	褐色	精製品	004
第50図 7	SH250 上層	土師器	瓶	(15.0)	2.9+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 赤色粒	(内)褐色 (外)にぶい 褐色		008
第50図 8	SH250 上層	弥生 土器	甕	—	2.8+ α	(7.0)	—	—	角閃石・長石・ 白色粒・赤色粒	茶褐色		003
第50図 9	SH250 上層	土製品	ミニチュ ア土器	—	2.5+ α	(3.8)	—	—	角閃石・長石・ 金雲母	にぶい褐色		009
第50図 10	SH250 上層	石製品	砥石	37.3+ α	17.8	2.5	—	2425.0	—	—	安山岩製	010
第50図 11	SH250B 下層	土師器	小型 丸底壺	(15.6)	7.2	—	—	—	角閃石・金雲 母・赤色粒・長 石	褐色		001
第50図 12	SH250C 下層	土師器	甕	(24.3)	6.4+ α	—	—	—	長石・角閃石	(内)にぶい 黄褐色 (外)にぶい 黄褐色	中西・服部2002 要E類	002
第50図 13	SH250C 下層	土師器	甕	—	5.6+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 金雲母	にぶい 黄褐色		001
第50図 14	SH250C 下層	土師器	高坏	—	3.0+ α	—	—	—	石英(多量)・長 石・金雲母・角 閃石	褐色		003
第50図 15	SH250C 下層	須恵器	無蓋 高坏	—	1.8+ α	—	—	—	白色粒	灰色	内面自然釉	004
第50図 16	SH250C 下層	須恵器	坏蓋	—	2.0+ α	—	—	—	白色粒	灰色		005
第50図 17	SH250 南側壁 溝	土師器	甕	—	2.0+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 金雲母・白色粒	(内)褐色 (外)にぶい 褐色	要A	001
第51図 1	SH260	土師器	甕	(15.4)	6.1+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	暗黄褐色	要A 外面に黒斑あり	008
第51図 2	SH260	弥生 土器	甕	—	2.8+ α	5.2	—	—	長石・角閃石・ 白色粒	(内)黒褐色 (外)灰褐色		013
第51図 3	SH260	土師器	壺	—	7.5+ α	—	—	—	金雲母・石英	(内)淡黄白色 (外)褐色	外面に赤色塗彩	003
第51図 4	SH260	土師器	高坏	—	7.4+ α	—	—	—	角閃石・長石・ 白色粒	褐色	坏部・裾部打ち欠き 穿孔1ヶ所残存	011